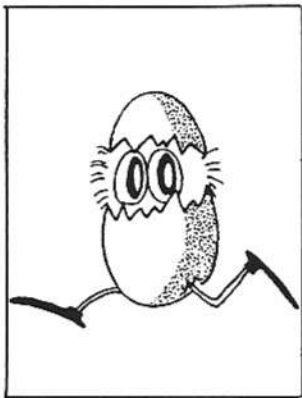


こんにちは**ラッターくん**



“**BRAND NEW**”なるか  
,’93文化祭

9  
17  
18  
19  
い  
い  
い  
よ  
秒読み

来る九月十七日（金）から十九日（日）に開かれる第四十二回文化祭は、いよいよ秒読み段階に入った。この七日からは、文化祭準備期間に入り、各団体が準備が大詰めを迎えることになる。校舎新改築工事で使用場所などに影響があった去年に比べ、今年は、落成したばかりの中央校舎棟、家庭科教室棟を使って行われる初めての文化祭となる。新企画や、従来企画の変更なども見られ、BRAND NEW（真新しい）のテーマ通り、今年が文化祭そのものの節目となることを予感させる。プログラムから、例年との変更点を拾ってみる。

（関連記事二面）

## ◆新企画

新企画がいくつか目につく。

一日目では、ゼミと討論会。ゼミは、先生方に御座る門についての講義をしていただくもの。文企展示バート主催で、講座は次の通り。

〔中学〕 環境問題（徳安美術学校）（山岡（高校）西洋近代思想（寺田）彫刻（和田）味覚（山地）Ⅱ敬称略

討論会は、二派に分かれた討論者が二時間の討論会を行うもの。テーマは中学が「Jリーグかプロ野球か」、

# 新校舎での初の文化祭

高校が「制服か私服か」。  
文企総務パート管轄である  
二日目には、三階・多目  
的教室で本などを扱うバ

例年、大講堂を使っていた演劇部とESSの公演は新しくできた中央棟四階の大教室で行われる。収容人員は大講堂の約千四百人に比べ大教室は約百八十人。両部とも毎年その広さをもて余し気味であった。なお、演劇部は公演を二回行うのも目につく。

教室展示では、文企が、例年禁止していた展示教室内のBGMや飾付けを認め、コンクール審査基準にもなる。中学渡り廊下と大講堂人口に一括して貼っていた

ザーがある。文企アミューズの管轄。またアミューズでは、三日めにも教室企画を予定している。

### ◆ 变更点

従来の企画に見られる変更点を挙げてみる。

トの「ラッターくん」。文化祭への意識向上を目指して、今年初めて定められたものである。デザインしたのは宇都浩一郎君（ⅡF）。文化祭テーマの「BRAND NEW 洛星〜動く〜」から、かえつたばかりの卯と走る足を描いたそうである。「ラッターくん」の命名者は鈴木栄富君（3）。洛星のラクと、星のスターを組み合わせた名前とのことである。

文化祭  
テーマソング

# 少年の夢

作詞・作曲・演奏 入信院と zierou 達  
協力 上田 孝暢／竹居 正登



風を 捨てる な す ぐには かない は し ない  
 風を 捨てる な い つかか なうー は ず さ  
 ぼくは そらを見 上 げ またふでを 取った  
 そばには コ スモスが 咲いて いた

1 少年の頃エゴン・シーレの絵を見た  
僕は絵を描こうと思った  
丘に登って見る街が好きだった  
それを描こうと思った

\* 夢を捨ててゐるな すぐには叶いはしない  
夢を捨ててゐるな いつか叶うはずさ  
僕は空を見上げ また筆を取った  
そばにはコスモスが 咲いていた

2 人は僕の絵を見てあざ笑った  
何度も描いて見たけれど  
僕はエゴン・シーレにはなれなかった  
草原に筆を投げ捨てた

\* repeat  
\* repeat

エゴン・シーレ (EGON SCHIELE)  
1890~1918 オーストリアの画家

## 第42回文化祭プログラム

第1日目				第2日目								第3日目							
17日(金)				18日(土)								19日(日)							
大講堂	小講堂	教室	特別教室	大講堂	小講堂	旧視聴覚	展示教室	中庭	地学教室	3F多目的	大教室	大講堂	小講堂	旧視聴覚	展示教室	中庭	茶室	地学	大教室
0840 開会式				0840 H I 演劇			0900 ・クラブ 学年展示					0840 謡曲							
15 M 1 演劇	高校映画	高校討論会	高校ゼミ	0940 H II 演劇	中学小フェス		1100 天文					20 コン	V T R		1000 クラブ展示・学年展示		茶	王	
1000 M 2 演劇				1050			15 天文					1100	サ				模	将	演劇部
1105 M 3 演劇				1200 弦楽合奏			・クラブ 学年展示					10 天文					観	会	
1210				1330 天文			・クラブ 学年展示					40 V T R					店	戦	ESS
1320				1400 中学校合唱	高校小フェス		高校					50 天文							
1500				1600								1315 オーケストラ							
1600												1430							
												1530							
												閉会式							

衣 笠

バスや電車の中には必ずといっていいほど優先座席が設けられている。でも、バス等の席に座るときに、競ってこの優先座席に座る人はいない。これは、「優先座席＝老人しか座れない席」と勘違いしているからである。そういう固定観念がなくても、心の片隅にはこんな気持ちがあるはずである。だからバスが混んでいて、お年寄りの方々がたつておられてもいっそうに席を譲らない。かといって、お年寄りの方に席を譲らない若者が一方的に悪いわけでもない▼私は、市バスの十五系統で通学しているが、去年の秋に数回実験を行なった。内容は次のようなものである。まず、座席を確保するために始点から乗車する。次に、ある程度バスの中にお年寄りの方が立ってこられたら、私は一言「どうぞ、席に座ってください」とお年寄りの方に声をかける。そうするとほとんどの方は、「ありがとう」とおっしゃった。この言葉に不快さを感じる人はまずいないだろう。しかし、ある方は、「私達老人に席を譲るのが当たり前でしょ」などとおっしゃった▼私達がお年寄りの方に席をかわることは、実に当たり前のことである。しかし、「ありがとう」の一言くらいあっても良いのではなからうか。このよなこと一つ一つが若者の席を譲るといった行為に、戸惑いを覚えさせていることにはじめて気付かされたものである▼もし現在在優先座席をすべて廃止すれば、きつと若者がほとんど占領してしまいうに違いない。しかし、老人に席を譲るといった人も必ず出てくる。こんな人を見習って徐々に心の中で優先座席を作れば、きつと自然とお年寄りに席を代わられるはずである。この時、本当の意味の優先座席ができるのである。











